

研究紀要の発刊に寄せて

現在は不確実性や曖昧性に富む将来の予測が困難な時代、VUCAの時代とも呼ばれています。昨年12月には次の学習指導要領に向けて大臣諮問がなされ、こうした激しい変化が止まることのない時代を生きる子どもたちの育成にあたっては、「自らの人生を舵取る力の重要性」や、「多様な他者と、当事者意識を持った対話により問題を発見・解決できる『持続可能な社会の創り手』を育てる必要性」が指摘されています。子どもたちにこうした資質能力を身につけさせるためには、まず、教師自身が最新の知識や技術を常に学び続けていくことが求められています。

静岡県総合教育センターは、平成7年8月の開所以来、「本県の学習と教育の中核的存在として、新しい時代の人づくりを目指す」ことを基本理念に掲げ、高度で専門的な研究を基盤とした質の高い研修を実施することにより、学校や教職員を支援し続けてまいりました。

当センターでは、「研究」を「研修」と並ぶ主要事業と位置づけており、学校が直面している教育課題の解決に向けた取組に対する支援や教職員の資質向上を目指した各課を中心とした研究を重視しつつ、所員の校種を超えて組織を横断して編成したプロジェクトチームによる研究にも精力的に取り組んできました。この研究紀要は、当センターにおける研究成果を、本県教職員をはじめとする多くの教育関係者の皆様と共有するものです。

本年度の研究紀要には、上記のプロジェクトチームによる「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する研究」の他に、特別支援課による「特別支援学校における子どもの資質・能力の育成に向けた取組に関する研究」、高等学校支援課による「高等学校におけるICT活用指導力向上を目指した校内研修プログラム開発に関する研究」について成果をまとめ掲載いたしました。いずれの研究も、学校現場で解決が求められている重要な課題であり、小中学校、高等学校、特別支援学校、全ての校種の教職員の皆様の要望や期待に、多少なりともお応えできるものと考えております。

当センターは、今後とも研究と研修の一層の充実を図り、本県教職員の資質向上を通して、未来の創り手である子どもたちの成長を支えていきたいと考えています。本研究を進めるにあたり、御協力をいただきました関係機関の皆様には厚く御礼申し上げます。

令和7年3月

静岡県総合教育センター
所長 杉山 禎